<table>
<thead>
<tr>
<th>項目</th>
<th>内容</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>Title</td>
<td>ドイツ労働者スポーツ運動の展開 労働者スポーツ・体育中央委員会の創設について</td>
</tr>
<tr>
<td>Author(s)</td>
<td>唐木・國彦</td>
</tr>
<tr>
<td>Citation</td>
<td>一橋論叢 74巻5号 447-465</td>
</tr>
<tr>
<td>Issue Date</td>
<td>1975年11月1日</td>
</tr>
<tr>
<td>Type</td>
<td>Departmental Bulletin Paper</td>
</tr>
<tr>
<td>Text Version</td>
<td>publisher</td>
</tr>
<tr>
<td>URL</td>
<td><a href="http://doi.org/10.15057/1748">http://doi.org/10.15057/1748</a></td>
</tr>
</tbody>
</table>
労働者スポーツ運動が礫食されようとしている四〇年代、学校の先駆的な試行が重ねられていた。たとえば、労働者の労働者体育新聞（A・E）の一端として実施する多目的な出版事業、労働者スポーツ学校、労働者体育新聞（A・E）をはじめとする多数の出版事業、労働者スポーツ・インターナショナル（R・S・I）を中心に中核的な役割を果たすなど、スポーツ組織を主導する労働者スポーツ運動が消滅し、労働者のスポーツ組織が消減を余儀なくされている。"まあ、これに到達することができしないだろう。しかし、労働者スポーツ組織を主導する労働者スポーツ運動が消滅し、労働者のスポーツ組織が消減を余儀なくされている。"
（３）ドイツ労働者スポーツ運動の展開

若者の各クラブが群の「階級的集団」をなしで労働者のクラス・アップのあるドイツスポーツ運動全体の自主権を争う事態が生じていたのである。

第二は、社会主義者労働者階級（社会主義者ラウス）の存在である。右の組織で結成された労働者のクラブ、特に上級の「階級的集団」からは、いさか赤色をもたれた体育クラブとのみとなっていた。特に一八三六年にはラウスが全ドイツ労働者協会を結成しており、社会民主主義者党（一八九六年）・コーエン邸領（一八七五年）の影響下における労働者が同時に体育クラブの会員に加わっていたことから、自由体育家同盟（社会民主主義者）という偏見が流布されていなかったのである。

一方で、既存のスポーツ組織は、ドイツ帝国の体制側と対峙をすることで、体育祭典を開催し、あいは会議を催し、その後は、全国連盟を創設する自らのクラブを組織し、保守政党的支持を試み、それに反対する会員を除名する事件までひろがっていた。

一方、既存のスポーツ組織は、ドイツ帝国の体制側と対峙をすることで、体育祭典を開催し、あいは会議を催し、その後は、全国連盟を創設する自らのクラブを組織し、保守政党的支持を試み、それに反対する会員を除名する事件までひろがっていた。
ドイツ労働者スポーツ運動の展開

労働者スポーツ組織にたいする労働者体育家連盟の弾圧とアルジェンタの体験的に行われた regularization である。労働者体育家連盟の初の会員は、一九八四年に結社に係る条約を改め、当局側の態勢建ちがはかれて、短期間に組織が解散される。理由は、政治的結社以外の団体が政治活動を行なっている、との疑いを受けたからである。解散をまねがれたクラブも、会員名が翌年には、ケムニッツ近郊のジーコフと

すでに一八九四年には、ケムニッツ近郊のジーコフの体育クラブが警察の手によって解散させられている。
一橋論叢 第七十四巻 第五号 (6)

労働者側との対抗の姿勢を強化する。

一九五五年、ドイツ体育連盟は、社会民主主義者を排除することを目的とする。あらゆる政治的党派活動は、これを排除する「政治的中立」を確認したのである。しかし、この「政治的中立」を強化する手段としてドイツ体育連盟総会において、組織活動の原則として社会民主主義者を排除することを活動目的にかけ、社会民主主義者を排除するためのカリクレであり、専ら労働者政党が支持するためのカリクレとして、労働者政党の影響を排除するサイジに適用された。（社会民主主義の革命的諸傾向と体育家の愛国主文とは相容れない）

さらに、ネチス体制に積極的に協力した体育史家と、ノイエンドルフがこの規約を、ソトゥルレの敵にたいする防衛戦で繰り返し使用可能な武器であった」と評した。
（7）ドイツ労働者スポーツ運動の展開

名誉会長においてすらこのような強硬手段を試みたのであるから、一般会員は、より一層苛酷な中傷を受けた。たとえば、ラジオの「あるクラブ」や、指導者が四五名もの会員にたいして「三日以内にパスを返さなければならない」と言っているのである。指導者が選択をせまり、その結果、クラブが分裂して新クラブが生まれた。

だが、こうした当局およびグループのスポーツ組織による弾圧、中傷、干渉のさい口実に用いられた「自由体育家」によって、社会民主主義の政策が、そのような組織の分裂を助長していった。特に、当時のプロラジオのスポーツ組織に関しては、当時のスポーツ組織の公式は、必ずしも事実を反映していなかった。

しかし、のちに、一部の労働者スポーツ組織は、労働者のスポーツ組織が自身のものであることを公言するクラブを設け、ポルトガルの労働者スポーツ組織から、自由スポーツクラブルーバルク)、その規約に「自由スポーツクラブ闘争の宣伝活動に奉仕すること」を目的にかけており、また、八九八九年の国会選挙において、ルンバハとグリュンハイムシュの自由体育家が体操運動で社会民主主義政党の選挙宣伝活動を行なっていたが、積極的に政治の関連をもったクラブがあった。

以上の事実から、いささか、労働者がそのような別組織に結集することを「力の敵」であるという見解が支配的であることを、労働者のスポーツ組織や労働組合は、労働者のスポーツ組織は、労働組合の「力の敵」であることを、労働者がが、どのような見解が支配的であった。
組織であることを自覚する集団のなかに青少年を加わらせるかは、まさに「帝国」の命運にかかわる事柄であっ
た。

労働者スポーツ組織では、もちろんスポーツ活動が主に、意識の高揚と結びつける活動の目的は、労働者組織
の機能を、今日は社会民主主義の赤色に明確に位置づけ
た。プロレタリアートにおける私的施設および私人にたいする国家の監督を定めた
一九三四年の内閣は、一九三九年の内閣を訓令
が発表。これにより、当該地域の監督官庁の証書なしに、学校および教育施設を設けない。また、学校
教育年齢の範囲（四歳以下）にとどめていたものを
「二一歳までに拡大し、学校当局が設けたスポーツ
クラブに加入することの是非を決定する道を開く。さらに、学童にたいしては、学童を志意的に変更し
て付則を加え、労働者スポーツ組織に関与した者に

454

一橋論叢 第七十四巻 第五号 (8)
打ち、罰金、拘禁にまでおよぶ「テロ的措置」を加える。
こうした当局の弾圧策の頂点となるのが一九○八年
の帝国総会法（Reichsratsgesetz）の制定である。
同法は、二五条にわたってあらゆる結社、集会にについ
tての規制事項を盛り込んだものであるが、にくに労働者スポ
ツ運動にかかわるものをつぎの諸条である。

第三条「政治的事項を影響力を及ぼす目的をかかげ
た結社（以下政治総会とよぶ）は、いずれも会長と規約
をついての場所と時間を持つ。」また、会長は、総会後二
週間以内に規約ならびに理事名を当該地方警察に報告す
される（第三条）。

第一七条「一八歳未満の者は、政治総会の俸員とな
ってはならない。また会社を目的とした催し物でないか

ドイツ労働者スポーツ運動の展開

もし、このような定義のもとで労働者スポーツ組織を「
政治総会」と定義するならば、青少年がそらの組織
の影響を受けることを防止できる、というのが当局の目
算であった。

現じる各地の裁判所では、帝国総会法の規定を違して
労働者スポーツ組織を「政治総会」と定義する作業が続
けられていた。その代表例がキールにおける自由体育家
クラブの事件である。

一九〇八年二月、キールの上級行政裁判所は、労働者

455
新庄、ピーターサーの文書、メーデーの参加者の証拠に同市の自由体育家クラブにいたして政治的な結論説明書をしなかった。同月四日、警察当局は、クラブ規約を変更して一州裁判所、上級裁判所を経て、一九三二年末裁判所が適用することになった。そのさい最大の証拠となったのは、同クラブが一九三一年七月一日に、デンマークの港湾労働者に連帯のあいさつをされたことである。それを通じて政党としての社会民主主義勢力が間接的に強化する役割をはたし活動形態をとっている。שעהなあいかどうか、証拠物をもたれた報告をもとめる。

また、地方党政当局、学校、教会などと結託して労働者体育家ホーク・運動場から「だいたい運動に着手する」。さらにまた、地方警察は、父兄にいたして子供を労働者組織に加入させないよう指示し、あるいはまた労働者組織の影響をあらたに創設された地方では、青年会員を従えることがある。このようにして労働者スポーツ組織は、多面的な対抗が生じる。
ドイツ労働者スポーツ運動の展開

裁判の結果は、政府、裁判所、労働組合の三者一体のもので、労働者側は不利な判決を受けていた。しかし、裁判の問題点は、労働者スポーツ組織の組織そのものについて、学校教育年齢にある学童および上級学校在学生について、労働者スポーツ組織と関係について、学校当局が加入を禁止できるかについて問題があった。裁判の結果を踏まえ、労働者スポーツ組織の側で、これらの問題点を解決するための新たな方針を打ち出すつもり。すなわち、労働組合・政党との関係において、労働者スポーツ組織が政治的・社会的立場を占めることを前提として、労働者スポーツ組織の組織改革を進める必要がある。
...
ドイツ労働者スポーツ運動の発展

前節で見たように、青少年をめぐる労働者スポーツ組織の闘争は苛烈をきわめた。それは、青少年育成事業が労働者スポーツ運動の主要目的にかかっていたからだけではなく、それぞれのクラブ組織の構成員の大半が青少年であり、彼らを獲得することが運動の成功を支配するからである。逆に体制側にとっては、従来から「愛国心」と兵士としての身体的能力を培うことを目的としてきたブルジョワのスポーツ運動の「聖域」にたいしてブルジョワのスポーツ組織は、自らの組織の再編成に着手する。一九二三年の国会選挙で社会民主党議席が三割を突くと、労働者側の大勢を抑制できないと判断したブルジョワのスポーツ組織は、労働者組合連盟（DGB）の組織を結集する。これにたいして労働者スポーツ組織は、「労働者スポーツ・体育中央委員会（ZK）一九二三年一月創設」の決が第一次世界大戦以前の闘争を継承する。そしてこの両者の対決が第一次世界大戦以前の闘争を継承する。そしてこの両者の対

一九二三年の国会選挙で社会民主党議席が三割を突くと、労働者側の大勢を抑制できないと判断したブルジョワのスポーツ組織は、労働者組合連盟（DGB）の組織を結集する。これにたいして労働者スポーツ組織は、「労働者スポーツ・体育中央委員会（ZK）一九二三年一月創設」の決が第一次世界大戦以前の闘争を継承する。そしてこの両者の対

一九二三年の国会選挙で社会民主党議席が三割を突くと、労働者側の大勢を抑制できないと判断したブルジョワのスポーツ組織は、労働者組合連盟（DGB）の組織を結集する。これにたいして労働者スポーツ組織は、「労働者スポーツ・体育中央委員会（ZK）一九二三年一月創設」の決が第一次世界大戦以前の闘争を継承する。そしてこの両者の対

一九二三年の国会選挙で社会民主党議席が三割を突くと、労働者側の大勢を抑制できないと判断したブルジョワのスポーツ組織は、労働者組合連盟（DGB）の組織を結集する。これにたいして労働者スポーツ組織は、「労働者スポーツ・体育中央委員会（ZK）一九二三年一月創設」の決が第一次世界大戦以前の闘争を継承する。そしてこの両者の対

一九二三年の国会選挙で社会民主党議席が三割を突くと、労働者側の大勢を抑制できないと判断したブルジョワのスポーツ組織は、労働者組合連盟（DGB）の組織を結集する。これにたいして労働者スポーツ組織は、「労働者スポーツ・体育中央委員会（ZK）一九二三年一月創設」の決が第一次世界大戦以前の闘争を継承する。そしてこの両者の対

一九二三年の国会選挙で社会民主党議席が三割を突くと、労働者側の大勢を抑制できないと判断したブルジョワのスポーツ組織は、労働者組合連盟（DGB）の組織を結集する。これにたいして労働者スポーツ組織は、「労働者スポーツ・体育中央委員会（ZK）一九二三年一月創設」の決が第一次世界大戦以前の闘争を継承する。そしてこの両者の対

一九二三年の国会選挙で社会民主党議席が三割を突くと、労働者側の大勢を抑制できないと判断したブルジョワのスポーツ組織は、労働者組合連盟（DGB）の組織を結集する。これにたいして労働者スポーツ組織は、「労働者スポーツ・体育中央委員会（ZK）一九二三年一月創設」の決が第一次世界大戦以前の闘争を継承する。そしてこの両者の対

一九二三年の国会選挙で社会民主党議席が三割を突くと、労働者側の大勢を抑制できないと判断したブルジョワのスポーツ組織は、労働者組合連盟（DGB）の組織を結集する。これにたいして労働者スポーツ組織は、「労働者スポーツ・体育中央委員会（ZK）一九二三年一月創設」の決が第一次世界大戦以前の闘争を継承する。そしてこの両者の対

一九二三年の国会選挙で社会民主党議席が三割を突くと、労働者側の大勢を抑制できないと判断したブルジョワのスポーツ組織は、労働者組合連盟（DGB）の組織を結集する。これにたいして労働者スポーツ組織は、「労働者スポーツ・体育中央委員会（ZK）一九二三年一月創設」の決が第一次世界大戦以前の闘争を継承する。そしてこの両者の対
帝国の自由と独立のための戦争を息絶せようとする労働者のスポーツ運動の影響から青少年を保護することであった。彼は青少年にこう呼びかける。「体育の同志よ恐れてはならない。……労働者の日義に寄食している職業的な働き者に耳をたたむけるよりも、ドイツを祖国としている青少年の密告によってはなしとげられなかったことを、つま込む。どうしたドイツ青少年同盟にたして在国および地方行協会の宗教・教育担当大臣は、各地方長官死刑で、当該地の関係官庁だけでなく、あらゆる青年団体にドイツ青少年同盟の存在を周知徹底させるよう指示する。また、会長ゴルツを通じて、青少年育成事業国家資金からの財政援助の道を開き、集会、行事のための公共施設利用の便をはかる。このような当局の姿勢は、労働者体育家のボルネル運動場から「たたきだす施策をとるべきさまに対照的であった。

労働者スポーツ組織からは、当然、これにたいして激しい非難が加えられる。まず特に、スポーツ・体育組織に青少年の殺戮を阻止し、彼らを社会主義に染染する危険からまとまりとした。一方、ブルジョワ的「引退者」スポーツ・体育クラブ員の三分の一は、労働者組合・政党に組織された労働者であることを憂慮し、「既存の労働者スポーツ組織でスポーツ活動を行なううな精神的に働きかける」と。
（15）ドイツ労働者スポーツ運動の展開

一、スポーツ・体育のための絵・労働者連合」を創設して「アルジェという水路」を航行しているクラブに

少年団（Arbeiter Jungenbund）のカルテルをつく

この声明にたいして、前記の団体の存消を表明して、一九二二年一月、ベルリンで準備会議を開催したうえ、同年一月一

七日、統一戦線組織、労働者スポーツ・体育中央委員会

組織はつぎのとくである。中央委員会の規約によれば、同委員会の目的、事業、

目的の第二条、当委員会は、アルジェ的な同系

各団体から労働者が参加し、かくのごとき諸連盟への

進展するためのときの有用な方策をとる。a、アルジェ

の諸連盟に対抗して、啓発記事と情報とを掲載した刊行

一九四四年にあってから、さらに各地方とに、スポーツ・カルテルと結ぶ中間組織の役割を果たすとともに、当該

地方において所属連盟を異なる個々のクラブ（たとえばサッカー・クラブと自転車クラブ）の横の連絡をは

ことになる。こうして、すべてのクラブは、中央委員会の指導と

」「スポーツ・カルテル」の決定したがって、宣伝書簡

のため各地に文書頒布網を確立する。」「友好的新聞社

欄を設けさせる、行事を共催する、」「敵」を監視して

中委書簡に報告するなどの活動にとりくむ。

一九四四年初頭までに、この中央委員会に加盟したの

は、別表に掲げる七団体、三七、三四七名であった。

401
<table>
<thead>
<tr>
<th>団体名</th>
<th>会員数（1893）</th>
<th>1911</th>
<th>1912</th>
<th>1913</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>労働者体育</td>
<td>169,308</td>
<td>183,383</td>
<td>186,707</td>
<td>(2,025)</td>
</tr>
<tr>
<td>家連盟</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>労働者自転車</td>
<td>133,928</td>
<td>143,369</td>
<td>175,000</td>
<td>(3,230)</td>
</tr>
<tr>
<td>連盟</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>労働者陸上競技</td>
<td>2,500※</td>
<td>6,000</td>
<td>10,000</td>
<td>(108)</td>
</tr>
<tr>
<td>連盟(1905)</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>労働者水上スポーツ</td>
<td>5,999</td>
<td>6,650</td>
<td>8,060</td>
<td>(43)</td>
</tr>
<tr>
<td>連合(1897)</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>労働者救急</td>
<td>2,172※※</td>
<td>3,750</td>
<td>5,000</td>
<td>(47)</td>
</tr>
<tr>
<td>協会(1909)</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>テーラー協会</td>
<td>16,299</td>
<td>21,985</td>
<td>30,000</td>
<td>(不明)</td>
</tr>
<tr>
<td>“ナトゥーアフロインデ”(1895)</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>国民健康連合</td>
<td>9,500</td>
<td>11,200</td>
<td>12,000</td>
<td>(60)</td>
</tr>
<tr>
<td>(1890)</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>339,706</td>
<td>376,347</td>
<td>426,767</td>
<td>(6,301)</td>
</tr>
</tbody>
</table>

Nachschlagebuch, a. a. O., SS. 25-42. より引用者作成。
※※ ※※ 1910 年の数値。

一九一年から三年間の会員数を比較すれば明白なよう
に中央委員会による統一戦線の結成は、あきらかに労
働者スポーツ連合の組織拡大のねらいを満ずるものであっ
た。懸案であった青少年の獲得、同様の成果をあげる。

そして、逆にブルジョワ陣営の青少年の獲得、同様の成果をあげる。

以上のような意味をもっていた。まず第一に、統一戦線結成は、労働組合、社会民主党
にたいするキャンペーンでもあった。社会民主党は、一
九〇八年の党大会で「提携宣言」を行なって労働者がブル
ジワ的スポーツ組織に加入することを中止する勧告を
したにもかかわらず、下部組織は必ずしもそれにしたが
ったわけではない。

たとえば、社会民主党ヴェルデンベルク支部がブル
ジワ的スポーツ組織の会員である党員を除名すべき
かについてアレコートを行なったところつぎの結果が

{| 大回答 | ベルデンベルク支部 | |}
<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>否定</td>
<td>可能</td>
<td>未決定</td>
</tr>
</tbody>
</table>

462
ドイツ労働者スポーツ運動の展開

出た。三二五地区からの回答のうち、除名に賛成が九二
地区、反対が五三地区、残りは保留であった。反対の
理由は、「除名をすれば賛成党員が減少して、労働者
組織が解体される。」とか、「賛成率の変動は現実
的なものであった。回答した地区だけ
でも八○○名以上の党員が労働者
組織から離れたことを現実的
なものであった。賛成の回
答をした地区からも労働者
体育クラブが存在する地
区では当然そうすべき(除名措置をとること)|引用者)だ
が当地では存在しない|とコメントが付されてい
た。

これは、地方の末尾部では既存の労働者
組織が半数に満たない実情からもたら
した結果であるとも理解できる。すなわち、賛成の回
答をした地区からも労働者体育クラブが存在する地
区では当然そうすべき(除名措置をとること)|引用者)だ
が当地では存在しない|とコメントが付されてい
た。

この不名誉な事態において最も厳しく手段をたたむか

第3にあげなければならなのは、中央委員会を通じてわが運動組織の中央集権化をはかった結果、その後の運動が良くも悪くも、少人数の幹部の思想によって左右される結果を生むことである。ここでは詳細に入らなかったが、ついでにわが運動組織の中央集権化をはかった結果、その後の運動が良くも悪くも、少人数の幹部の思想によって左右される結果を生むことである。

所詮、第二次世界大戦開戦直後の実質的な中央委員会を支配していた労働者スポーツ家連盟幹部が、それまで主張していた国際主義戦争反対論を打ち捨ててロシア・ツァーから祖国を防衛するために戦争体制に協力する態度を明らかにするのである。

以上に述べたように、一九二二年の労働者スポーツ・教育中央委員会の結成は、政治とスポーツとの関係を極限まで追求せざるをえなかった歴史的条件のなかで、

2) Nachschlagebuch für die Leitungen der öffentlichen Sportambten, S. 196.
3) Der Minister der geschildten und Unterrichtes-Außengebieten, u. a. B. Nr. 649), Berlin, W. G. den 17. Februar 19, in Nachschlagebuch, S. 23. 4)

"Cultural and Sport," "Korrespondenz der K"
(Engagement) Vgl. A T Z 1913 Jg. 11 Nr. 17 S. 273.